

## 現状

- ・上水道や簡易水道の給水区域外の地区（水道未普及地区）は県内で約700地区
- ・H20年度に県の補助制度創設  
実績：30市町村414件（H20～R5交付決定件数の合計）  
→ 約7割の地区で施設整備済み
- ・うち、9割以上の給水施設は住民が維持管理

## 課題

- ・施設の維持管理にかかる住民の負担が大きい
- ※多くの集落で、施設の維持管理が課題と回答

令和3年度高知県集落調査より  
＜集落・個人で管理する施設の集落＞

◆飲料水を確保していく上での課題…

『施設の維持管理』：67.6%  
『施設維持・修繕の費用』：56.3%

（複数回答可）

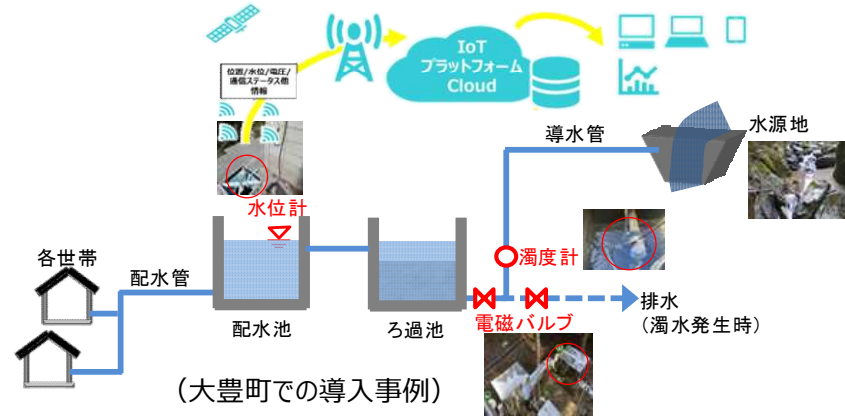
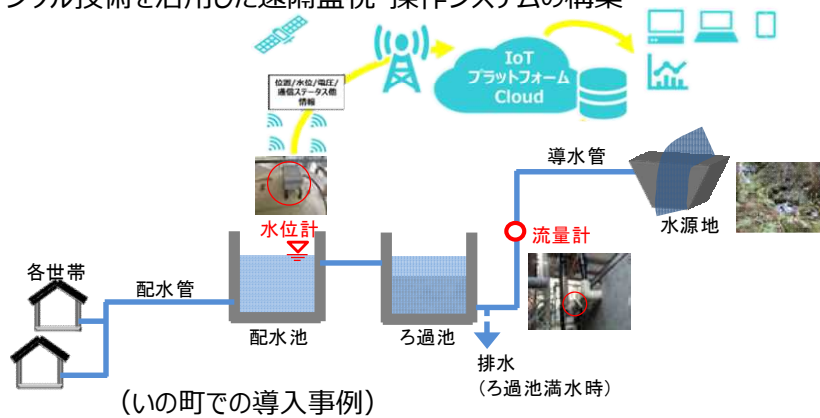
- ・水源地まで距離があり山が険しいため、施設の日常点検に出向くことに危険が伴う
- ・台風時等、水源地で濁水発生が予想されるときは、事前にろ過池に出向いてバルブを閉め、濁水が流入するのを防ぐ必要があり、大きな負担になっている

## 対策

- ・R4年度にデジタル化実証事業を実施
- ・R5年度から補助金メニューに追加
- R6年度までに県全体で4市町村7地区でデジタル化を導入

## デジタル化 事例

デジタル技術を活用した遠隔監視・操作システムの構築



例）システム管理画面



※緊急で施設点検や清掃で現地に行った回数を比較（検証期間：R4年10月～R5年7月）

### ◆デジタル化による負担軽減効果

- ・徐々に水が減っていく様子などがわかり、急な断水がなくなった  
→日常の不安が解消
- ・遠隔操作により対応が可能となった  
→大雨で水源地が濁る時でも現地に出向く回数が減少

	導入前	導入後	増減
いの町川口	10回	5回	△50%
大豊町庵谷	26回	4回	△85%